

茨陵会

茨木工科高校
同窓会
第6号

発行：春日5丁目6-41
電話：072-623-1331



茨陵会会長
小池隆彦

茨陵会会員の皆様におかれましては、益々ご活躍のことと思っております。

来年、茨木工科高等学校・茨木工業高等学校は創立50周年を迎えます。この日を迎えられるのも、偏に会員の皆様のご協力のお陰です。心からお礼申し上げます。

我々は昭和三八年、機械工学科・電子工業科・工業化学



校長
長谷川 悟

茨陵会の会員の皆様、いかにお過ごしでしょうか。校長の長谷川です。

3月11日に発生した東日本大震災は、福島第一原子力発電所事故の発生も含め、日本社会全体に甚大な被害をもたらしました。直接または間接的に被災された会員の方もおられると思います。亡くなられた方々のご冥福と、一刻も早い被災地の復興を祈っております。

さて、本校はいよいよ来年(平成24年)に創立50周年を迎えることとなります。6月3日に第1回目の「創立50周年記念事業実行委員会」が開催され、いよいよ節目の50周年

科の三学科で開校し、その後

も時代変化に沿った学科変更を経て現在に至ります。我々は設立以来「ものづくり」に特化し優秀な人材を育成・排出しています。例えば「高校生のものづくりコンテスト全国大会」では平成二十年度に化学分析部門で優勝を飾る等、同大会に四年連続出場をはたしました。これらの結果は、先輩方々から引き継いでいる「ものづくりスピリット」の精神として、後輩達にも限りなく脈々と受け継がれるものと確信しています。

に向けての取り組みがスタートしました。茨陵会には、実行委員長の小池会長、副委員長の川崎副会長をはじめ、総務、記念誌、式典、記念事業の4委員会にも多くの会員の皆様にご協力をいただいています。役員の皆様には、あらためて感謝申し上げます。また、素晴らしい周年行事となるように会員の皆様のご協力をお願いしたいと思います。

先日、ある中学生からこんな質問を受けました。「茨木工科高校の一番素晴らしいところは何かと思いますか」——突然の質問に様々な言葉がよぎりましたが、このように答えました。「茨木工科高校は約50年の歴史を持ち、茨木市では3番目に古い公立高校です。すでに1万3千人を超える卒業生を排出し、その卒業生は学んだ知識と技能を発

私は本校の一期生でした。

この為、後から入学してくる後輩達の模範となるように、と先生方から大変厳しく指導を受けましたが、沢山の素晴らしい思い出を残せました。あの時の厳しくも温かい指導があつたからこそ、社会人となり困難な局面に遭遇した時も頑張る事ができました。私達を熱血指導してくださった先生方には、今なお感謝の気持ちが続きます。

本年三月十一日、東日本は未曾有の震災に見舞われ、被災地の方々は今なおお悩みのようです。この北摂地域中心に地域社会になくてはならない人材として活躍しています。このことが一番素晴らしいことだと思っています。

学校は社会の要請があるときにその存在を示すことができ、そこで学ぶ生徒は社会の要請があるときに、最もその能力を伸ばし才能を開花させることができます。「ものづくり」に対する社会的な要請は、今後も失われることはないでしょう。工業高校の素晴らしいところは、学びながらその社会的な意義を実感できることにあります。本校の歴史はそのことを証明しており、在校生をはじめ今後卒業する生徒にもこの作業を継続してほしいと願っています。

茨陵会の皆様、来年50周年記念式典でお会いしましょう。

自由な環境下にありながら、懸命に日々生活を送っています。同じ国民としてその姿には共感を覚えると共に、彼の地に思いを馳せると胸が痛く涙溢れます。また震災後、様々な場面で「絆」が再認識されています。

日本が今日のような技術革新・発展を達成できたのは、困難が山積していても、諦めない前向きな精神、技術者の獨創性・技術力向上と社会貢献の賜物と思っております。

このような中で、我々茨陵会会員が「ものづくりスピリット」として、被災地の方々の力になるお手伝い、何かできるのではないかと考えています。

今後とも何とぞ、皆様の絶大なご支援ならびにご協力を賜りますよう、心からお願ひ申し上げます。

ホームページをご覧ください。

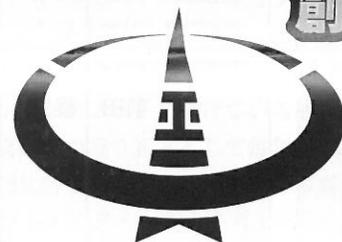
いよいよ50周年記念式典の開催日も決まりました。明年式典を行う予定の学校が、本校を含めて4校有ります。他の学校と調整しつつ、平成24年12月1日(土)に決定されました。式典の場所は最初、茨木市市民会館での会場を考えていましたが、予約が1年以上前からの受付が行われていないことと収容人数の数が800名というところで、茨木工科高校の生徒だけの収容しきれないというところで断念しました。学校より少し離れていますが、収容人数が1500名まで可能ということで



高槻現代劇場の会場を使用することとなりました。具体的なことについては、2ページに掲載している各委員会を進めていくことになっていきます。この各委員会には多くの卒業生も参加し、中心的な役割を果たしています。今後具体的なことが進み詳細が決まっていきましたら、茨陵会ホームページや茨木工科高校ホームページの50周年に関する所を検索して下さい。また、具体的に記念式典への参加方法や50周年記念への寄付についても、まだ何も決まっています。今後の50周年に関する情

創立50周年記念式典 開催日決定!!

日時：平成24年12月1日(土)
場所：高槻現代劇場



大阪府立茨木工業高校 (1~42期) 卒業生総数

機械工学科	6,393名
電子工業科	4,175名
工業化学科	2,004名
環境化学科	507名
計	13,079名

大阪府立茨木工科高校 (1~4期) 卒業生総数

機械系	450名
電気系	239名
環境化学システム系	233名
計	922名

総卒業生数 14,001名



茨陵会ホームページURL
<http://www.siryokai.com>

茨木工科高校ホームページURL
<http://www.osaka-c.ed.jp/ibaraki-t/>

報については茨木工科高校のホームページや茨陵会のホームページ等を使って会員の皆様にお知らせしていきたいと思っております。

50周年記念事業実行委員会の組織と委員会の役割

■各委員会の役割

(1) 総務委員会 (委員長: 堀田隆志)

- ・ 記念事業趣意書の立案
- ・ 外部組織との連絡、連携
【茨陵会(同窓会)・PTA・一輪会(旧PTA会員)・茨温会(旧職員)】
- ・ 予算および決算
- ・ 日程の調整等
- ・ 式典等の列席者への招待状発送等
- ・ 各種委員会の調整
- ・ その他

(2) 記念誌委員会 (編集長: 三谷兼一郎)

- ・ 「創立50周年記念誌」(冊子)の発行 (見積もりから編集・発行まで)
- ・ 編集長・会計の選出 (互選)、(会計: 記念誌の見積もり等、総務との調整業務)
- ・ 記念誌発行までの日程検討・調整
- ・ その他

(3) 式典委員会 (委員長: 古川良祐)

- ・ 記念式典の内容検討 (演芸、講演会等)
- ・ 記念式典会場 - 茨木市民会館 (予約、会場準備、会場レイアウトまで)
- ・ 祝賀会内容の検討
- ・ 祝賀会の会場準備 (見積もりから予約、会場レイアウト、内容まで)
- ・ その他

(4) 記念事業委員会 (委員長: 児泉健治)

- ・ 記念品の決定 (在校生・教職員向け・来賓への記念品)
- ・ 記念品の見積もりから発注・配布まで
- ・ 記念事業の決定
- ・ 記念事業の見積もりから発注・検収まで
- ・ 航空写真(校舎)の段取り
- ・ その他

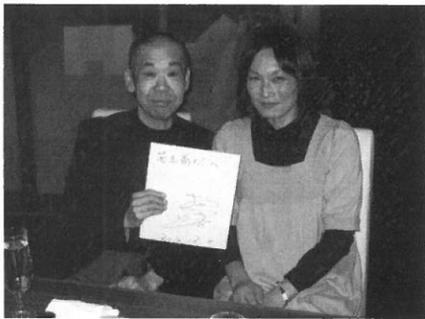
■日程について

日 時: 平成24年12月1日(土) 時間帯は決まっていません
場 所: 50周年記念式典会場 高槻現代劇場

いよいよ明年、創立50周年を迎えるにあたり記念事業実行委員会が発足しました。本年6月3日に第1回実行委員会が開催され50周年へ向けての取り組みがスタートしました。組織図と実行委員の方々の名前を紹介させていただきます。なお、実行委員の中に10名の卒業生が参加されています。



50周年へ向け いよいよスタート!!



OB紹介

☆16期生 おか ゆうた氏 ☆



茨木工科高校卒業生で芸能人になった方が数名いらっしゃる。今回はおかげゆた氏(よしもとクリエイティブ・エンジェンシー所属)を紹介しよう。

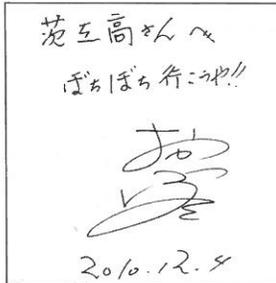
現在も吉本の漫才コンビ「おかげゆた」のゆた氏(本名 井元保則さん)は本校機械工学科を昭和56年に卒業されました。担任は3年間大西正雄先生で、本当に生徒思いでよい先生だったということ。悪いことをして殴られた経験は今でもよく覚えていて、大西先生が担任でなかったら、高校3年間、続けられなかったかもしれないとのことでした。3年間毎日阪急茨木駅から徒歩で通学していて、体重90kg以上

と立派な体格をしていたので、甲子園で人気があった浪商学園(茨木市)の香川選手とよく間違えられたそうです。卒業後は、京都グランドホテル(現リーガロイヤルホテル京都)のコックとして働きましたが、友達と出た素人漫才コンテストに出場したことをきっかけに、芸人になろうと決意しました。当時絶大な人気があったオール阪神・巨人の巨人さんの師匠である岡八郎氏を訪ねて弟子入りされました。その時、花月で裏方の仕事をしていた今の相手とコンビを組み、おかげゆた・ゆたとして昭和58年3月にデビューされました。

その後、第17回NHK上方漫才コンテスト優秀賞や第34回上方漫才大賞等各種の賞を受賞され、今日も第一線で活躍されており、ネタは主に相方が作り、二人で完成度を高めていくパターンが多いとか。今でもステージに上がる前は緊張されるそうです。

最後に後輩に贈る言葉として、「誰かが見ている。誰かが助けてくれる。がんばりすぎず、ぼちぼちいこうや!」をいただきました。

PTA新聞掲載より



講師室 (PTA控え室) に掲示してあります

活躍する各系の様子を紹介します。

電気系の取り組み

「電気工事に関する競技大会」で府下No.1の実績
電気系では、平成18年度から「電気工事に関する競技大会」に参加し6年が経ちました。全国大会3位2回、近畿大会進出4回と大阪の高校ではNo.1の実績



左が岡田くん。近畿大会の課題を製作中。

「高校生ものづくりコンテスト電気工事部門 近畿大会2位入賞を終えて」

電気系 岡田 和之

僕はものづくりが好きで何かを作りたいという強い気持ちで、この「ものづくりコンテスト」に出場しました。初めは自分の作品の出来が良いのか悪いのか、よく分からなかったのですが、回数を重ねるうちに自分の作品に不満を持つようになり、もっと出来の良い作品を作りたいと思うようになりました。毎日、放課後、学校に残り、遅くまで、課題を練習し、休日は一昨年前に、全国大会3位になったOBの先輩方がご指導に来て下さり、色々分からない所を教えて頂き、本当に感謝の気持ちで一杯です。結果は2位で、あと一歩で、全国大会には出場できませんでしたが、一生に一度しかない貴重な経験をさせていただきました。ご指導下さった先生方や、OBの先輩方にはとても感謝しています。本当にありがとうございました。

です。現在ではOBが来校し指導をするという体制もできました。今年度の成績ですが、「高校生ものづくりコンテスト」において、大阪大会2位、近畿大会2位という戦績でした、今年度、出場した生徒の作文を掲載しますので是非お一読下さい。

国家資格「第二種電気工事士」の実績

電気系では、平成19年度より、国家資格「第二種電気工事士」に対して、2年生に全員指導を授業の中で行うなど、電気系を上げて資格取得に力を入れていきます。

試験内容は、まず6月初旬に筆記試験があり、7月末に筆記試験合格者に対して技能試験が行われます。

毎年、生徒たちは、筆記試験対策として過去10年間の過去問(50問×10年=500問)を全てマスターします。また、技能試験対策として公表問題13題を制限時間40分間にミスなく完成できるように、最低3回は練習をします。ほとんどの生徒が、未だかつてない努力をし、かけがえのない財産となる経験をしています。これまでの5年間の合格実績

は以下の通りです。(3年生は希望者の受験結果です)指導もようやく充実してきました。今後ともコンスタントに合格者を出し続けたいと考えております。

第二種電気工事士 茨木工科高校合格者数

	2年(合格率)	3年(合格率)	計(合格率)
平成19年度	54名/81名中(66.7%)	17名/25名中(67%)	71名/106名中(67%)
平成20年度	43名/71名中(60.6%)	11名/11名中(100%)	54名/82名中(65.9%)
平成21年度	32名/53名中(60.4%)	9名/15名中(60%)	41名/68名中(60.3%)
平成22年度	45名/81名中(55.6%)	5名/10名中(50%)	50名/91名中(54.9%)
平成23年度	58名/80名中(72.5%)	12名/18名中(66.7%)	70名/98名中(71.4%)

茨木市恒例のイルミネーションの製作・施工に参加

毎年、年末年始に、茨木市恒例のイルミネーションが駅前を彩ります。平成22年度から電気系3年生の生徒の有志で、参加協力をしております。昨年は、市の花であるバラをモチーフに、電気系3年生27名で、10月中旬から放課後の時間を利用して準備



茨木市の広報12月号の表紙を飾った写真

作業に取り組みました。12月1日にJR茨木駅の前で行われた点灯式では、茨木市長をはじめ市の関係者とともに、電気系3年生の生徒も出席し、茨木市観光大使から本校の取り組みが紹介されると大きな拍手が起きました。その後、一般の方も含め全員で大きな声でカウントダウンし、イルミネーションが点灯されました。この電気系の取り組みは、茨木市の広報12月号の表紙(下の写真)を飾った他、市のフォトニュース、いばらきイルミネーションブログ等でも、くわしく紹介されています。

に努力しましたが、残念ながら入賞はできませんでした。

今年度の年末も、電気系3年生の有志で行う予定です。地域の有識者のために、地道な作業のなかに、社会に貢献する心を養うこと教育ができること信じております。

環境化学システム系の取り組み

環境化学システム系が特に主体的にとりくんでいることは、資格試験と高校生ものづくりコンテストです。

資格試験については、危険物取扱者試験の乙種第四類です。この試験は、大阪では毎年5回実施され、本



校では第2回と第5回の試験に向けて全校生の希望者を対象に講習会を行っています。2010年度からは、それまでの指導方法を変更し、特に1年生に対して、入学式当日に講習会参加者を募集し、入学式の次の日から試験直前まで講習会を毎日朝7時30分、8時25分に行うという方法で実施しました。1年生145名が講習会に参加し、43名が合格しました。このような取り組みは、2011年度も行

っています。なお、昨年度の冬に実施した第5回危険物取扱者試験に向けての講習会では、1年生27名が参加し、23名が合格(合格率85%)しています。次に、環境化学システム系は高校生ものづくりコンテスト(化学分析部門)にも毎年参加しています。2010年度は、「中和滴定法により試料水中の酢酸の含有率を求め、測定結果の報告書を出す」がテーマで、現2年生の瀨田将大君と現3年生の松永拓君が参加しました。2011年度は、「キレート滴定法により



試料水100mL中のCa及びMgの定量を行うことにより、試料水の硬度を求め、測定

結果報告書を出す」がテーマで、1年生の石原拓海君と2年生の古川泰成君が参加しました。両年とも大阪電気通信大学(寝屋川市)で8月中旬に近畿大会が実施されました。4人の競技者は夏休みも毎日登校して、技術の向上

3学年の資格習得の取り組み

平成23年度、3学年(5期生)で今年も春休み・夏休みを利用して資格取得に取り組みました。資格取得にはキャタピラー教習所株式会社(SCM)近畿教習センター茨木教習所の協力をいただき、多くの生徒諸君が受講しました。

- 小型車両系(ユンボ)
M系64名 E系11名 C系13名 合計88名
23年3月実施 講習料 12,000円
- フォークリフト
M系49名 E系11名 C系15名 合計75名
23年8月実施 講習料 37,500円
- 玉かけ
M系22名 E系1名 合計23名
23年8月実施 講習料 22,000円



フォークリフト講習

コンピュータ部

コンピュータ部は放送部も兼ねて活動しています。放送部は様々な行事で活躍しています。

夏休み中の活動内容

文化祭に向けてのミーティング
功績または成績

8月のサイエンスフェスタで優秀賞 11月の彩都サンデーサイエンスで奨励賞を受賞



バスケットボール部

バスケットボール部は夏の大会が終わわり、3年生が引退しました。北地区公立高校大会、新人戦に向けてチーム作りを始めています。



夏休み中の活動内容

夏休みは暑い体育館で走り、体力をつけていました。

功績または成績

インターハイ予選初戦突破
ウィンターカップ予選初戦敗退

実業総体初戦敗

バドミントン部

私達バドミントン部は日々鍛錬しています。今年の実業大会で男子シングルス準優勝・団体3位という成績を残しました。これからも、良い成績を残すため心を鬼にして自分に厳しく技術向上していきたいと思っています。

夏休み中の活動内容

大阪高等学校総合体育大会の練習をしました。

功績または成績

実業大会 男子シングルスの部 準優勝 男子団体の部 3位

ハンドボール部

ハンドボール同好会は部員が少ないですが、練習を月・水・金の放課後と決めて1年間真面目に続けて行き、来年4月に新入生を迎え必ずクラブへ昇級して公式戦で活躍できるように頑張っています。

夏休み中の活動内容

実業総体への参加を目指し、練習試合やハンドボールコートでの練習に頑張りました。

功績または成績

実業総体第4位 1人少ない試合で勝利することが出来ました。

環境倶楽部

生活環境をよくするためには何をすべきかを学習し、環境

化学システム系の分析機器等

を利用して環境分析を実体験しています。また高校生ものづくり大会や産業フェアなどにも参加し、外部との交流も行っています。

夏休み中の活動内容

BDF製造とアルミ燃料電池車の実験をしました。

功績または成績

ものづくり(化学分析部門)近畿大会出場



機械研究部

機械研究部は電気自動車(エコデンカー)を作り、今年は1回の大会に出場しています。大会の前になると車輛の整備と点検をしています。



生徒の活動の報告

夏休み中の活動内容

相撲ロボット製作 2011 Ene-i GPに参加
功績または成績
Ene-i GP 総合23位
クラス14位

軽音楽部

軽音楽部は、本年度も本校で最大の部員数(61名)であり、バンド数は10バンド以上あります。高等学校軽音楽部連盟大阪に加盟し、多くのライブに参加しています。現在は、秋の文化祭に向けて、土・日も含めて毎日練習しています。



剣道部

少ない人数ですが、毎日7時からの朝練と、放課後の練習は欠かさず頑張っています。大会成績は高校総体はベスト32、実業大会においては、10連覇を果たしました。

夏休み中の活動内容

練習試合・実業総体・合宿
功績または成績

実業総体、団体優勝・2段以上の部2名3位



自転車競技部

平成22年度沖繩インターハイスクラッチ2位
平成23年度秋田インターハイスプリント8位
今後も後輩の活躍にご期待下さい。



硬式テニス部

2010、2011年と実業総体2連覇できました。個人戦は準優勝で涙をのみました。でも、何より欲しかった団体での優勝だったのでOB達と共に喜びました。公立高校大会でも団体では本戦に行くことができました。全員でレベルアップを目指し、元気に練習しています。

夏休み中の活動内容

合宿後、公立高校大会、公式戦、実業総体と試合が続き休みなしの練習日程でした。

成績

公立高校大会、団体 大阪ベスト16入り 実業総体、団体優勝 シングルス・ダブルス共に準優勝と3位 春の第1学区本戦出場

水泳部

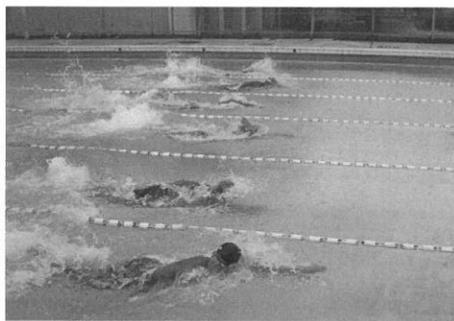
現在9名で、週6日、しっかりと泳いでいます。4種目とも技術を高めて、バランスのよい泳ぎを目指しながら、大会でベスト記録を出したいです。

夏休み中の活動内容

公式戦・実業大会などに向けて練習
功績または成績

大阪中央大会 100m 背泳ぎ 出場

高校対校 出場
9月に実業大会、新人戦出場
予定



調理部

日23年8月4日、インドのマッペン。ことクンナさんにカレーの作り方を教えてもらいました。

もちろん、市販のカレー粉は使わず、香辛料を使って作りました。カレーは辛いと言うイメージがありますが、チリパウダーの量で辛さは調節可能で、素材のうま味や甘みでおいしく頂けました。

調理部は、毎週、金曜日に活動しています。今年度はカツブケーキや高槻名物うどん餃



子などを作りました。文化祭での模擬店は、うどん餃子にしてはどうかと話し合っています。

夏休み中の活動内容

インドのマッペンことクンナさんにカレーを教えていただきました。功績または成績
毎年文化祭で模擬店を出店しています。今年も楽しみにしていただきます。

美術部

年に数回の展覧会出品とコンクール出品に向けて作品製作をしています。努力や工夫を重ね、少しずつ受賞も増えてきたことを励みに今後も頑張っていきたいです。

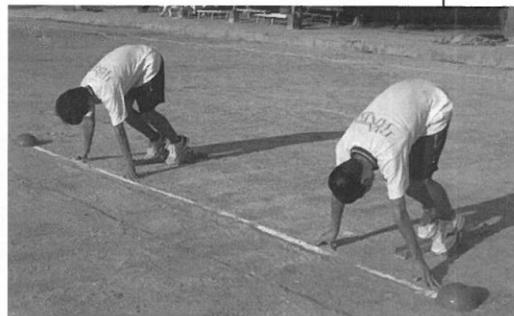


漫画研究部

夏休みは文化祭のイラストを仕上げられるように頑張りました。1人2枚のパネルを完成させます。木製パネルに画用紙を水張りするところから始めるので大変でしたが、文化祭に間に合うようにしています。

陸上競技部

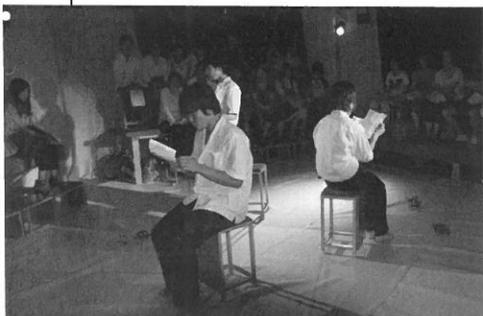
夏休み中の活動内容
実業大会と記録会(ナイター)に出場。これらの大会と秋季大会に向けて練習しました。
功績または成績
男子5000m 2位 走幅跳



2位 女子1000m 3位
200m 3位 走幅跳 3位
僕たち陸上競技部は部員は少ないのですが、その時々の大会に向けて一人一人がそれぞれ目標を持ち、毎日練習を続けています。

演劇部

昨年参加したC地区合同公演をきっかけに盛り上がりを見せ、2年ぶりに復活した演劇部は現在、合計14人の大所帯になっています。今年の夏にはSDFという夏の大会にも参加し、急な演目変更にも対応する柔軟さも見せました。(写真は当日の上演風景です)
11月の文化祭には家庭科と協力して「ケイタイの実態」をテーマにした公演を披露する予定です。楽しみをいして下さい。



同窓生の皆様へ

山岳部

夏合宿 北アルプス縦走(黒部五郎岳)三保蓮華岳(槍ヶ岳)
夏休み中の活動内容
8/18から8/22に夏合宿で北アルプス縦走
功績または成績
近畿大会出場(京都北山)



卓球部

今の卓球は部員全員、仲良く元気です。秋の大会に向けて頑張っています。
夏休み中の活動内容
大会に向け練習に励みました。功績または成績
実業総体1回戦突破



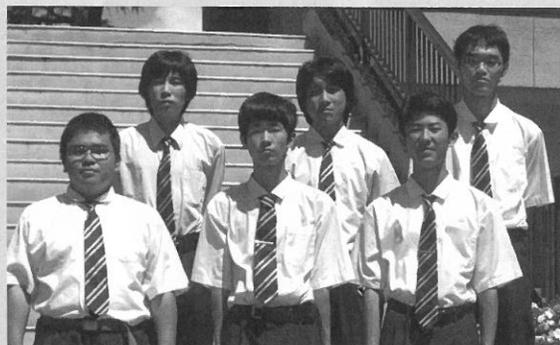
野球部

7月末に新チームになったばかりで、多くの困難がありますが、選手一同、一生懸命練習し、試合に勝てるよう頑張っています。
夏休み中の活動内容
練習と試合をしました。功績または成績
公立大会・工業大会出場



生徒会執行部

私たちの今年度活動としては、体育祭や文化祭の行事運営や準備、クラブ活動の援助などを行ってきました。今年度は東日本大震災があり、私たち生徒会役員は義援金活動を行いました。また、本校は、「あほやねん、すきやねん」という番組に出演し学校紹介などを行いました。生徒会は、学校の支援と生徒の代表としてこれからも頑張っていきます。



「あほやねん、すきやねん」に出演しました。



東日本大震災義援金の様子



第49回体育祭(6月10日)の様子

機械系の取り組み

本校機械系では専門性を活かし、3年時に課題研究で「朝礼台」「掲示板」「パネル」「校名看板」「シャワーミスト」などを製作しながら地元地域に贈呈をしたり、要望があれば材料購入代金のみを安価で製作を引き受け地域に貢献しています。

平成21年度では阿武野高校からの依頼を受け、完成した看板を屋上に設置することが出来ました。非常に感謝されています。

本年度は体育祭の熱中対策の1つとして課題研究でシャワーミストを製作し、入場門の横に設置して活用しました。シャワーミストはこの夏、他の学校から依頼があり実際に貸し出しをすることになりました。

の作品などの展示用に使っていますが、市販価格は約7〜8万円です。大きさは形状はご注文にあわせて製作しますので、お気軽にお問い合わせ下さい。(校長先生のPR文より)



パネル 掲示板製作します!

写真1、2はその一例で、なかなかしつかりとした作りになっています。写真1は多目的に使える掲示板で、製作費用は材料費約1万円ですが、見た目は市販のものと同レベルも遜色ありません(市販の価格は約4〜5万程度)。写真2は美術教室のパネルで、生徒

写真1：高さ160cm 幅40cm
枠はアルミ製で、脚は鉄製です。風が吹いても倒れないように設計しています。

写真2：高さ130cm 幅180cmのパネルを2枚つないで、固定して使っています。

《問い合わせ先》
茨木工科高等学校 長谷川 悟
電話 072-623-1331 FAX 072-623-0652



2011 Ene-1 GPに参加しました。

8月7日(日) 機械研究部の製作した「ウーパールーパー号」が「2011 Ene-1 GP SUZUKA」KV-40チャレンジ部門に参加しました。この部門は充電式単三電池40本を使用した車両が、「8時間耐久ロードレース」や「F1グランプリ」が開催される鈴鹿の国際レーシングコース1周(5.807m)を何分で走り切るかというレースで2回の合計タイムで競われます。1回目のチャレンジは50台の車両が参加し32台が完走、「ウーパールーパー号」は23分33秒515のタイムで25位でした。2回目のチャレンジでは25

台が完走し、「ウーパールーパー号」23分18秒446のタイムで23位になりました。この結果、合計タイムは46分51秒961で総合29台中23位の成績でした。今回は完走が目標で、タイム設定も1周25分で車両整備を進めてきました。来年参加するならば、1周10分の設定で走行することをめざし整備する予定です。



↑ウーパールーパー号と機械研究部
←スタートするウーパールーパー号



文化祭



合格発表



入学式



体育祭



修学旅行



ものづくりコンテスト大阪大会 電気工事部門2位入賞!!

平成23年度「ものづくりコンテスト大阪大会」(電気工事部門)が6月18日(土)大阪府立城東工科高校で開催されました。このコンテストは、工業高校生の技術・技能を育成することを目的として平成13年(2001年)に第1回が開催され、今年は10回目になります。電気工事部門では配線図に示された配線工事を電気設備技術基準に基づいて、指定された工具・材料を使い「施工条件」「注意事項」に従って120分以内で完成させることを競います。本校からは電気系3年生の生徒2名が参加し、電子情報通信専科の岡田和之君が見事2位に入賞しました。岡田君は8月に開催が予定されている近畿大会に出場します。



大会の様子・中央が岡田君

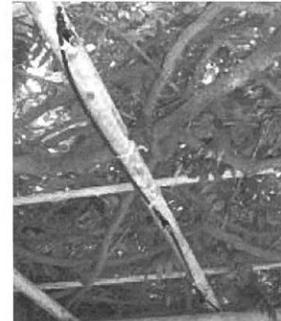


表彰を受ける岡田君

体育祭を開催しました。



6月10日(金)体育祭を実施しました。今年の3年生の立て看板は今年度の体育祭のスローガン「頑張って勝利をつかみ取ろう〜茨工体育祭〜」を盛り込んだ学年の団結力があふれる作品になりました。各クラスが趣向を凝らした結果「M3」(左から3番目)と「C2」(右から2番目)が同点優勝となりました。



また、今年度「次世代産業育成事業」を活用して3年生の課題研究で「シャワーミスト」を製作しました。藤棚には常設し、入場門には取り外しのできる「シャワーミスト」を設置しました。入場門の「シャワーミスト」は活用しましたが藤棚の「シャワーミスト」は気温があまりあがらなかつたので運転は見送りました。



母校だより

NHK取材の様子です

6月17日(金)NHKの「あはやねん!すきやねん!金曜日」の生中継コーナー《サオリン隊長がいく きらりん星みーつけ☆》の取材を受けました。左の写真は「茨木工科のスピードスター」と題して今年もインターハイ出場を決めた自転車競技部がインタビューを受けている様子です。また、本校では「地域貢献」の取り組みとして毎年茨木市内の小・中学校にアルミ製朝礼台を寄贈しており、右の写真は今年制作している生徒たちが「メイドイン茨木工科」と題して朝礼台のPRをしている様子です。番組の放送が終了した後、出演者のみなさんと記念撮影をして取材が終了しました。



H21年度~H22年度 転退職された先生

平成21年度

教科	氏名	勤務先
社会	高田 勉	高 槻 北
数 学	寺田 幸司	芥 川
数 学	畑地 晶男	再・北 摂 つばさ
保 体	青木 進	清 水 谷
英 語	川口 仁美	退 職
家 庭	上原 絹江	退 職
機 械	金藤 郁美	成 城 I・II 部
機 械	石田 精一	退 職
機 械	岩田 大空	再・退 職
機 械	松本 健	再・退 職
電 気	寺師 吉一	城 東 工 科
工 化	廣島 裕	退 職
技 師	入江 義一	茨 木 支 援

平成22年度

教科	氏名	勤務先
国 語	大和田小百合	摂 津
国 語	栗村 慶	阿 武 野
社 会	辻 哲夫	退 職
社 会	野々村安夫	大 冠
数 学	林 桂子	春 日
理 科	中井 仁	退 職
機 械	藤原 英明	淀 川 工 科
機 械	丸岡 通泰	退 職
機 械	真野早弥佳	堺 工 科 定
電 気	黒田 賢一	城 東 工 科
事務部長	五十嵐康夫	退 職
課長補佐	藤田 正美	芥 川
主 事	山岡 明夫	退 職

平成21年度 茨陵会決算書

収入の部

項 目	予 算	決 算	増 減	備 考
前年度繰越金	2,884,458	2,884,458	0	
会 費	1,534,000	1,501,500	32,500	6,500×231名
雑 収 入	1,542	22,281	▲20,739	滞納者会費・利子他
新聞寄付金	0	0	0	
合 計	4,420,000	4,408,239	11,761	

支出の部

項 目	予 算	決 算	増 減	備 考
総 会 費	10,000	0	10,000	
通 信 費	100,000	80	99,920	メール便
印 刷 費	100,000	0	100,000	
慶 弔 費	100,000	57,000	43,000	餞別金・慶弔費
会 合 費	70,000	33,255	36,745	理事会等
事 務 費	180,000	13,540	166,460	アルバム代・更新料等
新入会員歓迎費	250,000	235,000	15,000	認め印鑑
積 立 金	0	0	0	
管 理 費	0	0	0	
予 備 費	2,610,000	0	2610,000	
新聞発行費	1,000,000	1,037,880		
合 計	4,420,000	1,376,755	3,081,125	

次年度繰越金 3,043,245

監査の結果適正に処理されていたことを認めます。平成22年5月20日 茨陵会会計監査 時久加代

平成22年度 茨陵会決算書

収入の部

項 目	予 算	決 算	増 減	備 考
前年度繰越金	3,641,054	3,641,054	0	
会 費	1,475,500	1,456,000	19,500	6,500×224名
雑 収 入	446	727	▲281	利子
新聞寄付金	0	0	0	
合 計	5,117,000	5,097,781	19,219	

支出の部

項 目	予 算	決 算	増 減	備 考
総 会 費	10,000	0	10,000	
通 信 費	100,000	33,320	66,680	文化祭ハガキ・切手
印 刷 費	100,000	8,505	91,495	文化祭案内印刷
慶 弔 費	100,000	86,000	14,000	餞別金・慶弔費
会 合 費	70,000	39,197	30,803	理事会等
事 務 費	180,000	11,580	168,420	アルバム・更新料等
新入会員歓迎費	250,000	227,000	23,000	認め印鑑
積 立 金	0	0	0	
管 理 費	0	0	0	
予 備 費	4,307,000	4,692,179	385,179	
新聞発行費	0	0	0	
合 計	5,117,000	5,097,781	789,577	

次年度繰越金 4,692,179

監査の結果適正に処理されていたことを認めます。平成23年6月16日 茨陵会会計監査 時久加代

茨木工業・工科高校の生立ちと役割



本校元教諭
根前 幸治

半世紀に及ぶ茨木工業・工科高校の歩みは、私の教師生活の始めと、終わりに重要な役割を演じてくれている。何故なら1960年代の日本列島は高度経済成長の波に乗って大企業が中堅技術者を多量に必要とし、教育界に働きかけ、これを受けて工業高校が全国的に増設され、大阪府においても府立成城工業高等学校をはじめとして1962年に茨木工業・東住吉工業・河南工業（現在の藤井寺工科）・和泉工業の4新設高等学校が

学校が一斉に開校されたのである。

折しも、1963年の開業を目指した名神高速道路の突貫工事で梶原トンネル・天王山トンネルが掘削され、その残土の捨て場に困り、当時の日本道路公団が茨木倍賀神社（現春日神社）裏にあった広大な灌漑用地をその残土の捨て場とし、大阪府はその埋立地に茨木工業高校を建設する計画を思い立ったのである。

開校と同時に私も府教育委員会員の命を受けて本校電子工業科の教師として赴任してきしたが、まだしも建設中の実験棟の基礎となるパイルの打ち込み音を聞きながら、第一期生に教師手作りの実験セットを前にして実習室ではなく現在

在の図書室で実習の指導をしたものである。

しかし新入生は、将来の中堅技術者になる大きな期待に胸を膨らませ、教師に必死にしがみつきつつ厳しいレポート指導を受け、教師もまた、日進月歩する技術革新の波に乗るべく、企業内研修に社員と共に積極的に身を投じた。特に電子工業科の実習のレポート指導は、レポートを受け取ってもらおう生徒にとつて並々ならぬ苦勞と忍耐力が必要であったに違いない。

私が定年後、数年して期限付き講師で本校の教壇に再び立ったとき、最初に気がついたことは、昔からのレポート指導が、指導内容が幾分か和らいだとは言え、現在尚引き

継がれていることであった。それから間もなく、ある学年の修学旅行の付き添い教員に加えられた。当時国際交流の一環として府立高校みに於いても修学旅行を海外に求めるところがあった。この学年は、タイに行くことになっていた。閑空から国際線でタイに向かう機内での出来事であった。1時間程経過して落ち着いたとき、「先生、宜しいですか」と生徒の1人パンフレットらしきものを手に持って席の横に立っていた。「何か用か」と振向くと、大きな声で「2年1組……です。実習レポートを持ってきましたので見て下さい」と私の前にレポートを突き出した。私は思わずその生徒の顔を見ると同時に周りの乗客の視線も見回した。一瞬レポート指導の仇をとられたと感じた。その生徒はレポート指導の厳しさに対するス

トレスをこの機会に発散させようと考えていたに違いない。しかし、卒業式当日、拍手で送り出すとき、どの生徒も「先生、ありがとう」と声を出してくれた。ああ、あれで良かったんだなあとおつくづく思った。

編集後記

本校が創立50周年を迎えるにあたって、日本の工業技術を支え発展させていく教育指導に徹し、社会に貢献できる卒業生を送り出す責務があるものと思う。

この度、創立五十周年を明年に迎えるに先立ち、茨陵会（同窓会）新聞6号の副編集長として関わることになりました。現在の茨木工科高校の五十周年への取り組みや組織の紹介・生徒達の取り組みやクラブ活動を担当させていただきました。茨木工科高校の様子を少しでも知っていただけたでしょうか。

既に私も、茨木工業高校を卒業して三十四年がたち、同級生と顔顔を合わせてもお互いわからないようになってしまいました。今回この新聞の編集に取り組んでいく中で「あの同級生は、今どうしているかな」と思うようになりました。

以前、電子メールによる近況報告を企画しましたが、卒業生からの報告があまりにも少なく活用できていません。ぜひ、同窓会の報告や卒業生の紹介できる方がありましたら茨陵会事務局まで、お知らせ下さい。

来年も五十周年記念号の新聞が発行されます。今回の経験を活かしたいと思っております。

新聞発行に際して、理事の皆様にも大変お世話になりました。改めて感謝します。ありがとうございました。

九期生 理事 長谷川義昭

本校が創立50周年を迎えるにあたって、日本の工業技術を支え発展させていく教育指導に徹し、社会に貢献できる卒業生を送り出す責務があるものと思う。

文化祭のお知らせ

第49回文化祭を開催しますのでご案内させていただきます。

日時：平成21年11月7日(土) 午前10時より

本年度は50周年行事を踏まえ、同窓会からの援助金についての、茨陵会総会を開催します。

茨陵会総会

日時：平成23年11月5日(土) 午後3時

場所：本校図書館

茨陵会よりの連絡と注意

本年11月5日(土)午後3時から本校図書室で茨陵会総会を行います。内容は茨陵会の予算と決算の報告等を行います。50周年記念事業の同窓会からの賛助金の金額についての提案があります。また同窓会からの記念品についても総会で話し合われる予定です。是非多くの卒業生に参加していただきたいと思っております。

注意書き

茨陵会では、この新聞又は手紙による依頼以外は一切しておりません。また、他の業者を通して行うことはありません。(同窓会の名を騙る販売業者もあるようです。)

茨陵会（同窓会）新聞の発行について

日頃より、卒業生の皆様には大変お世話になっております。新聞発行の継続については、これまでも新聞発行する際をお願いして参りましたが「新聞発行に掛かる費用のご負担」について、今回もお願いすることになりました。これまでも大変多くの方よりご寄付をいただきまして新聞発行費用として60万近くまで集めることが出来ました。しかし、1回の新聞発行には100万円以上掛かっておりますので、今回もご寄付をお願いいたします。新聞発行については、2～3年に1回発行するようになっていますが、明年はいよいよ50周年ということで50周年記念版の新聞発行を考えております。

一口1,000円といたしましたが、何口でも結構ですので、よろしくお願ひ申し上げます。不景気が長く続く昨今であります。卒業生の皆様にも大変な負担を強いる事になりますが、事情と主旨をご理解いただき、何卒ご協力の程よろしくお願ひいたします。

印刷全般

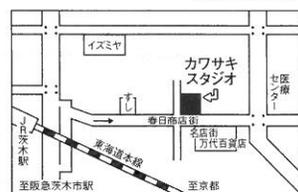
増原印刷

〒567-0881 茨木市上中条2丁目1-16

TEL:072-627-1417 FAX:072-627-1540 E-mail:goophy@hcn.zaq.ne.jp

カワサキ写真スタジオ

写真技能士 川崎正夫(第7期卒業生)



スクールアルバム 証明写真

記念撮影 ネガ付き就職用証明写真

茨木市春日1丁目13-32 春日商店街・木曜日定休

茨木 (072) 626-6590